

R4-14

地域の人的・物的資源を活用した防災教育の取組

- 管内 根室管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 中学校と高等学校が連携し、中学生が高校生から学ぶ防災教育の実施
- 2 自分の住んでいる地域での災害を想定した、標津町オリジナルHUGの実施

■取組の実際

ねらい

- 地域の高校生からの防災についての講義や自分の地域の災害について考える体験活動を行うことを通して、学んだ知識を基に状況に応じて、自分のとるべき行動を判断し行動する力を育成するとともに、防災意識の向上を図る。

内容

1 地域の高校生からの講義

- 東日本大震災の被害に遭った東北地域で研修を行った高校生が講義を行い、生徒は旧大川小学校、請戸小学校、中浜小学校の避難の行動の違いから、被害の大きさが異なることを知り、「津波避難の三原則」、第一「想定にとられるな」、第二「最善をつくせ」、第三「率先避難者たれ」について学び、災害時の行動の在り方について考えることができた。



【高校生による講演の様子】

〈生徒の感想（一部）〉

- ・旧大川小学校では、多くの方が犠牲になったと知り、災害時に自分ができる行動を考えようと思った。
- ・災害時に家族とどこに避難するのかを決めておき、スムーズに行動することが大切だと思った。

2 標津町オリジナルHUGの実施

- 高校生が製作した標津町オリジナルHUGを用い、高校生が進行し、中学生がグループで避難所運営ゲームを行った。自分の地域で災害が起こったことを想定することにより、避難所運営を自分事として捉え、自らの備えや地域の防災対策の課題に気付き、防災意識を高めることができた。



【HUGをしている生徒の様子】

〈生徒の感想（一部）〉

- ・避難所を運営する立場では、正しい情報を読み取り、状況を判断しなければならず、一つ一つの選択の重さを感じた。
- ・感染症の方への配慮など、グループで話し合いながら、最善策を考えることが大切だと思った。



【活動終了時のカードの様子】

成果と課題

- 中学生が高校生から防災についての講義を受けたことや体験活動を行ったことにより、中学生は防災を自分事として捉え、防災意識を高めることができた。
- 防災教育の一層の充実のため、中学校と高等学校が連携した取組の他に、学校、家庭、地域及び関係機関が連携した、防災意識を高めるための取組を行う必要がある。